

CSV 出力 & バックアップ作成

前述の [CSV 出力] にチェックが入っている場合、[SAMPLE] フォルダ内の「SMPxxx.BIN」から「SMPxxx.CSV」が作成されます。従って、[バックアップ作成] にもチェックが入った場合、「SMPxxx.BIN」と「SMPxxx.CSV」の両方をバックアップフォルダに保存します。
(マクロコマンド [SMPL_BAK] と [SMPLCSV_BAK] を同時に実行した場合と同じ動作です。)

保存のタイミング

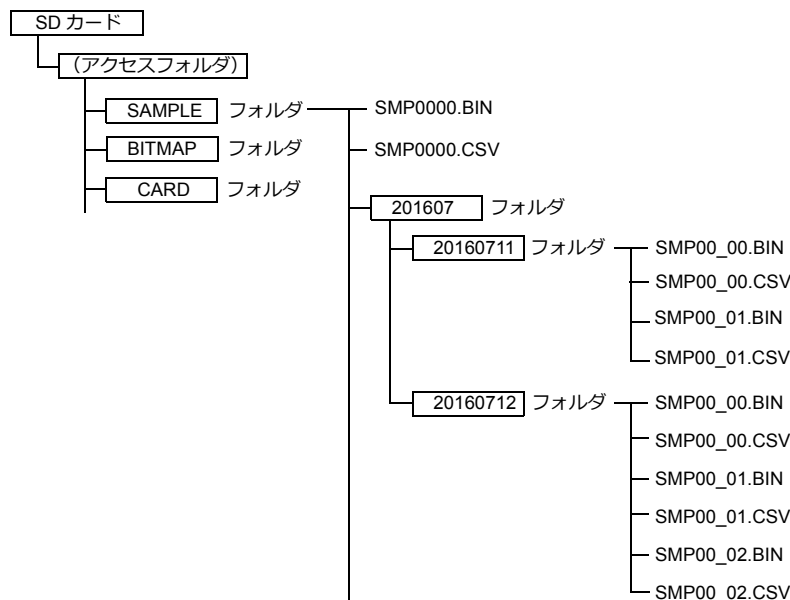
- 電源投入時
- 日付変更時 (AM1:23:45)
- 二次格納先が満杯の時
- マクロコマンド [SMPL_BAK] + [SMPLCSV_BAK]、[SMPL_BAK] + [SMPLCSV_BAK2] 実行時

格納先

¥ (アクセスフォルダ) ¥ SAMPLE ¥ YYYYMM ¥ YYYYMMDD

YYYY : 西暦
MM : 月
DD : 日

- ファイル名 : SMPxx_yy.BIN
xx = 00-11 : バッファリングエリア No.
yy = 00-99 : インデックス No.



- [CSV 出力] と [バックアップ作成] を使わずに、マクロコマンド [SMPL_BAK] + [SMPLCSV_BAK] を使う方法もあります。詳しくは『マクロリファレンス』を参照してください。
日付変更時にバックアップを取る場合、マクロの使用をお奨めします。
- バックアップファイルがストレージの容量を超える場合には、自動的に古いバックアップフォルダから削除することができます。
(ただし [システム設定] → [本体設定] → [環境設定] → [バックアップ作成時、ストレージ容量が不足した場合、古いフォルダから削除する] にチェックが入っている前提です。)